

## 『メタボリックシンドロームの最新の話』抄録

メタボリックシンドロームは、肥満（内蔵脂肪蓄積）とインスリン抵抗性という病態を基盤として、高血圧、脂質異常、高血糖が重積し、粥状動脈硬化症に基づく虚血性心疾患や脳血管障害の発症リスクが増大する疾患である。1980年代後半から、動脈硬化性疾患のリスクが増大する病態として、シンドローム X、死の四重奏、内蔵脂肪症候群、マルチプルリスクファクター症候群などの概念が次々に提唱され注目されていた。その後、こうした症候群を構成する各要素には共通の病態（内蔵脂肪蓄積、インスリン抵抗性）があり、その上流にはさらに過食や運動不足などの生活習慣の乱れが関わっていることが明らかになり、メタボリックシンドロームの概念へと発展した。

講演では、特定健診が始まったことで社会的にも注目されているメタボリックシンドロームの診断、治療を中心に、歯周病との関連も含めて話しをさせていただければと思っております。